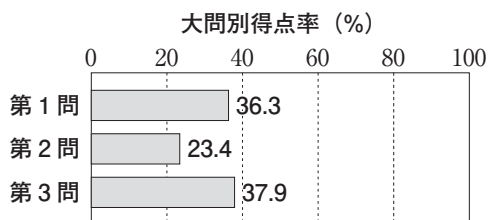
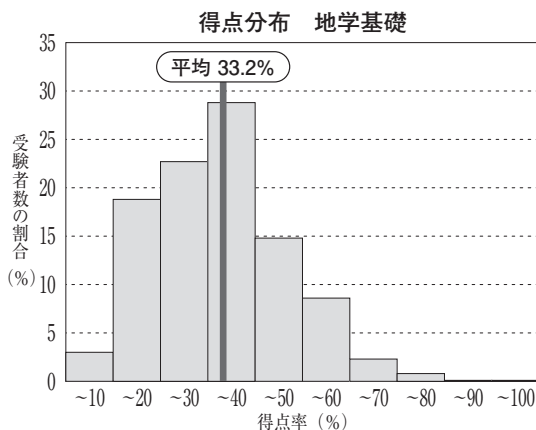


地学基礎

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の第3回8月センター試験本番レベル模試の得点分布は、次のようになっている。平均点は16.6点であった。一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 地球

地形や岩石に関する知識を整理しよう。

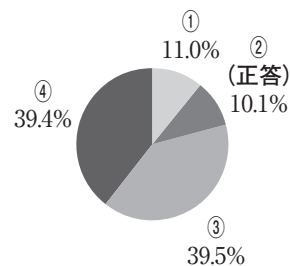
Aでは地球表面の大地形と地殻についての基礎的理解を確認した。3種類のプレート境界についてまとめておこう。

Bでは岩石の風化についての基礎的理解に合わせて酸性雨についての理解を確認した。酸性雨だけでなく、地球温暖化やオゾン層破壊など、人間活動による自然環境への影響も確認しておこう。

Cでは先カンブリア時代の歴史についての総合的理解を確認した。解説の表を参考に、先カンブリア時代の出来事の流れを確認しておこう。

Dでは玄武岩を題材に火成岩についての総合的理解を確認した。火成岩の構成鉱物に関する問題は、2018年～2015年のセンター試験でも出題されている。解説の表をよく理解しておこう。

問6 6 各選択肢の選択率



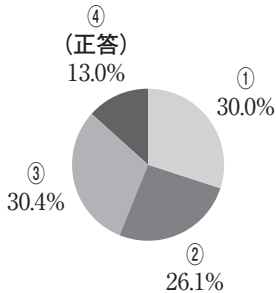
※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。以下同様。

第2問 日本の気象

天気図を読み取ろう。

日本の各季節の天気図の特徴についての基礎的理解と、偏西風の吹き方と季節の関係についての理解を確認した。日頃からテレビなどの気象情報に関心を持ち、各季節に特徴的な天気を天気図から説明できるようにしておこう。

問4 12 各選択肢の選択率

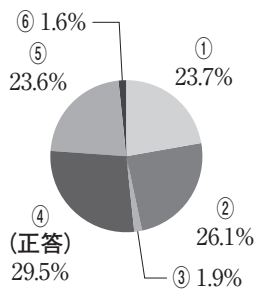


第3問 銀河・宇宙

宇宙に関する知識を整理しよう。

宇宙の膨張と宇宙の誕生についての基礎的理解を確認した。宇宙の膨張に関する問題は2016年のセンター試験でも出題されている。宇宙の進化のモデルや宇宙の構造について整理しておこう。

問1 13 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。

教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見ただけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

◆模試の復習をしよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくために、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続するとともに、これまでの模試の復習をくり返して、着実に得点を伸ばしていこう。